説明文の要旨をえらぼう

小5／文章を読んで、筆者がいちばん伝えたいこと（要旨）を1つえらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　漢字の覚え方を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

漢字テストの前、教科書を何度も読み返していた。読んでいるときは分かった気になるのに、テストになると書けない。そこで、本をとじて、覚えた字を何も見ずに書き出す練習に変えた。思い出せない字は、そのつど確かめた。すると、点数がぐんと上がった。

1. 覚えるには、教科書を何度もていねいに読み返すとよい。
2. 覚えるには、何も見ずに思い出す練習をくり返すとよい。
3. 覚えるには、何日かあけて、同じ練習をくり返すとよい。
4. 覚えるには、人に教えるつもりで説明してみるとよい。

2　森と海を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

カキを育てる漁師が、海から遠い山に木を植えている。山の森の落ち葉がくさってできた土には、カキのえさになる小さな生き物を育てる養分がふくまれる。その養分が川を通って海へ運ばれ、海を豊かにするのだ。海のめぐみは、山の森に支えられているのである。

1. 海の養分が、山の森の生き物のえさを育てている。
2. 山の森の養分が、海の生き物のすみかを作っている。
3. 山の森の養分が、海の生き物のえさを育てている。
4. 海の養分が、山の森の生き物のすみかを作っている。

3　さか上がりを よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

さか上がりが、なかなかできなかった。上手な友だちの動きを見て、まねをしてもうまくいかない。ある日、自分の動きを動画にとってもらった。見ると、うでを曲げているつもりなのに、うでがのびて、体が鉄ぼうからはなれていた。直す所が分かると、すぐにできるようになった。

1. 上達するには、自分の動きを動画で外から見るとよい。
2. 上達するには、できない動きを小さく分けて練習するとよい。
3. 上達するには、できたときの感じを言葉にして残すとよい。
4. 上達するには、あきらめずに何度も練習するとよい。

4　道案内を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

道を聞かれて、「二つ目の角を右、その次を左」と教えた。ところが、その人は通りすぎてもどってきた。角が多く、どれが二つ目か分かりにくかったのだ。次からは、「ポストのある角を右、赤い屋根の家の所を左」と、目印で伝えるようにした。説明は少し長くなるが、まちがえる人はいなくなった。

1. 道案内は、角の数で伝えると、まちがえにくい。
2. 道案内は、角の数で伝えると、短く伝えられる。
3. 道案内は、目印で伝えると、短く伝えられる。
4. 道案内は、目印で伝えると、まちがえにくい。